

合宿、練習会でおなじみの富士山麓。だが本格的な大会は平成17年春の全日本以来開かれていない。その富士山麓に2年ぶりに本格的な大会（JOA 公認カテゴリー-A）が帰ってきた。

静岡県OL協会 + NPO法人 Mnop 共催
2007年3月18日
富士宮市村山ジャンボ周辺

種目はミドル

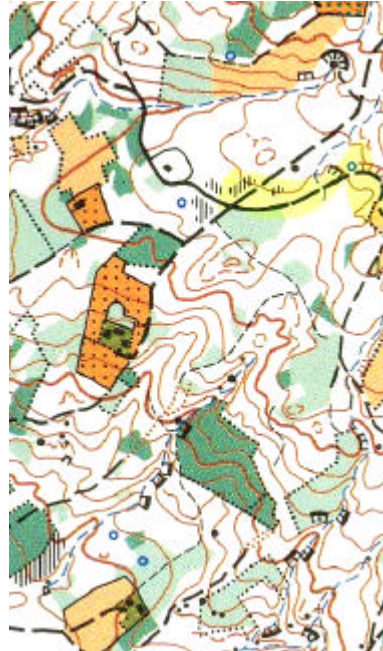
テレインは1989年の全日本大会で使われ、その後静大によってリメイクされた「雨降山」の南部。富士山麓としては、緑が多いが、その分「がーと走ればなんとかなる...」的なオリエンテーリングでは通用しない複雑なナビゲーション課題が待っている。

テレインが狭いせいもあって、コースはミドル。通常のクラスの優勝設定時間は概ね40分となっている。

地図は「鋤」作

富士地区の地図の多くに「鋤作」の銘が入っているのをご存じのことも多いだろう。ご存じプロマッパーであるロブ・プロライトの作であることを示す銘である。プロは鋤の意。漢字好きのロブが喜んで作っ

たのが、この銘である。参加者の皆さんは、今回もまたこの銘を目にすることになるろう。



旧「富士愛鷹（全日本地図）」

観戦の楽しさも！

注目は、男女エリート。この2クラスでは、ワンマン・リレー形式が採用される。ワンマン・リレーとはその名の通り、一人で行なうリレー形式。同時スタートするランナーを、フォーキングによる多様なコースコンビネーションでうまく分散させなが

ら、競わせるレース形式である。通常の個人レースはタイム差なので、誰がトップを走っていたのかはレースが終わるまで分からない。これでは観客にとっても面白くないし、レースをしている本人たちも、今一つ闘志がわからない。そんな旧来の個人種目を「見せる」という視点から改善したのが、このワンマン・リレーだ。

大会会場には、おなじみ村山ジャンボが使われる。国道469号線の南側にあるジャンボのサッカー場をスタート・フィニッシュにして、ワンマン・リレーが行なわれる。自分のレースを終えた後は、ワンマン・リレーでのトップ選手たちの走りをじっくり観戦することができる。

+ の楽しみも盛りだくさん

ミドル1戦では物足りないオリエンティアのためには、前日の記録会も用意されている。この夏にリメイクされた村山口を使った記録会、ウィンターチャレンジ100コントロール、ジャンボを会場としたスプリントを、前日楽しむことができる（ウィンターチャレンジは、概ね12月ごろからいつでも利用可能）

また前日から宿泊する人のために、午後や夜にはいくつかのテクニカル・セミナーやワークショップが開催される。走って、泊まって、頭を使って、また走る。この週末はオリエンテーリング三昧！

（村越 真）



今回は見られるかな？富士の秀峰



参加者を待つ、富士の林